

飛龍 開誠館に競り勝つ



浜松開誠館一飛龍 7回裏飛龍2死一、二塁、三浦が3点本塁打を放つ＝磐田球場

【浜松開誠館】	打	安	点
⑥	青木	5	0
⑦	高内	3	0
①	宮内	4	1
②	白井	3	0
④	日奈	3	1
⑧	奈座	4	1
③	西	2	1
⑤	新	1	0
計		31	12

【飛龍】	打	安	点
⑨	五松	4	1
⑧	塚山	3	0
⑦	山深	1	0
⑤	山口	4	0
②	三浦	2	0
③	加賀	4	0
⑦	三浦	4	3
⑧	齋藤	0	0
⑥	沢田	4	0
①	野田	2	1
④	菅角	2	1
②		0	0
計		34	11

【浜】	3	2	0	0	1	5
振球	3	4	2	0	0	残
振球	8	2	0	0	0	6

▽3回戦(磐田第2試合)	浜松開誠館	飛龍
0	2	0
2	0	0
0	0	1
0	1	0
2	0	2
0	5	0
0	2	0
0	0	0
1	3	0
3	0	×
0	×	×
×	×	×
×	6	5

【評】飛龍が浜松開誠館との接戦を制した。飛龍は二回と六回にリードを許したが、いずれもその裏に取り返した。同点で迎えた七回、5番三浦の3点本塁打で勝ち越し。その後の浜松開誠館の猛追を振り切った。浜松開誠館は3点を追う八回、内田の適時打などで1点差まで詰め寄ったが及ばなかった。

三浦勝ち越し弾

○：一進一退の攻防を展開し、同点で迎えた七回裏、飛龍の5番三浦は低めのスライダ

「リリーフの岡田に楽に投げさせたい」との気持ちで立った第4打席。多少体勢が崩れたが、打った瞬間に入ると思った。

ナイジェリア人の父と日本人の母を持ち、180センチ、87キロの恵まれた体格の長距離砲。警戒する相手に変化球主体で攻められることが多く、2年時から熱心に取り組んできた対策が実を結んだ。

小林監督代行は「あの場面での本塁打は正直出来過ぎ」と驚きつつ、「それだけの努力をしてきた選手」と納得

得の表情を見せた。次戦は「そこに勝つためにやってきた」と位置づける第1シールドの静岡。三浦は笑顔で元気に、飛龍らしく戦うだけ」と意気込んだ。